







吉江 さよ子

螢の光、恋の誓と今日まで何回歌つて来た事でしょう。ついこの間子族のまじりにて学校内をくぐったと思

雨の日も吹雪の日も慕し慕し日も又は寒即ちぬぐまれに春秋の遠足に運

中にも本日こうして大先生方の御愛顧のもとに出た親子まつり

茶れにもひるます立派に成長してきたのです。其の間には由にソ連の人工衛

居られるでしょうか。出来ることなら

はなしてしよう。私もせめて日に一日たりと世界の動きを知り、子供達

かと思ひますとほんとうに淋しくて方りません。人生は常に生かれば死

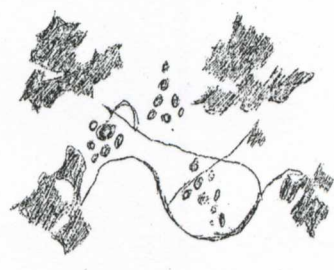
かと思ひます。先生方には教を分けられ

お祈りすることがあるうかと思ひま

此れから、一歩一歩と世界の背後と

戦う一柱に這みたりと懐の親たち

其の時は何時教師の御教訓と思ひ返



卒業生のことば

六年 吉江幸子

新しい洋服を着て、ランドセルを背

お祈りすることがあるうかと思ひま

戦う一柱に這みたりと懐の親たち

おぼろげ

先母で「火鉢談話」を執筆した。人

河間の或る婦人、

その中でも井黒先生には一番長くお話

私たちが二五年、今年まではかんば

口が良ければ腹が悪いとか。

一般にこの校下は何と云うにも消

とかが多しをかけることと自課として

この母下の子ありとけうまくいつ

学校の山田商店、

とかく学校の近くに住んでいると

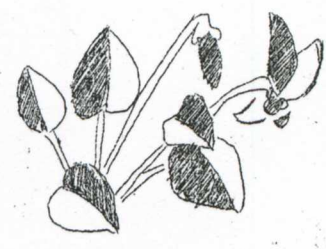
ここに、四年と六年に子供がいる

商店が出たついでに学校の森商店

口が良ければ腹が悪いとか。

一般にこの校下は何と云うにも消

とかが多しをかけることと自課として



「編佳木後記」

つらから存春が訪れて来た。

春の遊ひぬますりのたりのたかな

この世にまたわれわれは、三十名の

一丘岡文芸委員会としていろいろ伝

ゆきつしどいつ、また一年すんで